

平成27年度大阪府立三国丘高等学校 SGH フィリピンフィールドワーク報告書

SGH 研究主任 田中和代

1. 実施日：平成27年8月2日～8月9日（7泊8日）

2. 参加者：第2学年 SGH 授業選択生徒19名

3. 付添教員：5名

元関西学院大学教授西本昌二先生、大阪教育大学准教授田中満公子先生、本校教諭山脇龍郎、大塚雅之、田中和代

4. 日程

	日	訪問先	現地時刻	スケジュール	食事
1	2(日)	関西国際空港4F集合 関西国際空港発 ニノイアキノ国際空港着 Malayan Plaza Hotelへ	7:20 9:55 13:00 15:00 17:00 18:00	4階中央カウンター集合 PR407、空路マニラへ 専用バスにてホテルへ ホテルチェックイン ミーティング SMメガモールにて夕食 Malayan Plaza Hotel泊	朝× 昼○ 機内 夜×
2	3(月)	ホテル発 アジア開発銀行着  Malayan Plaza Hotel発 ケソンシティ着 ケソンシティ発 ホテル着	8:45 9:00 12:00 12:45 14:00 16:00 18:30 20:00	徒歩にてアジア開発銀行へ アジア開発銀行にて研修 昼食(アジア開発銀行食堂) 専用バスにてケソンへ Biodiversity Management Bureauにて研修 専用バスにてホテルへ SMメガモールにて夕食 ミーティング Malayan Plaza Hotel泊	朝○ 昼× 夜×
3	4(火)	ホテル発 Enderun College着  Enderun College 発 パヤタス着 パヤタス発  ホテル着	8:00 8:30 11:30 12:30 14:00 15:30 17:30 20:30	専用バスにて Enderun Collegeへ Enderun CollegeにてBuddyと会う 昼食 専用バスにてパヤタスへ パヤタスにて研修 専用バスにてホテルへ SMメガモールにて夕食 ミーティング Malayan Plaza Hotel泊	朝○ 昼× 夜×
4	5(水)	ホテル発 GK Farm着	7:00 9:30 10:30 12:30 13:30 15:00 16:00 16:45 19:00	ホテルチェックアウト/専用バスにてGK Farmへ チェックイン 研修: Tour of the Enchanted Farm 昼食 研修: Social Enterprise Demo 1(Plush and Play) Break 研修: Social Enterprise Demo 2(肥料作り) Fellowship night 夕食 GK Farm泊	朝○ 昼○ 夜○
5	6(木)	GK Farmにて終日研修	7:00 8:30 10:00 12:00 13:30 16:30 19:00 20:00	研修:A day in a life of a farmer(田植え体験) 朝食 研修: Business Development Session (Social Business Models and Innovations) 昼食 研修: Master chef challenge Community Interaction 夕食 ミーティング GK Farm泊	朝○ 昼○ 夜○

	日	訪問先	現地時刻	スケジュール	食事
6	7(金)	GK Farmにて終日研修  GK Farm発	7:30 9:30 11:00 12:00 14:00 18:00 20:30	朝食 研修: Golden Duck 研修: Environmental trends in social enterprise 昼食 チェックアウト/専用バスにてホテルへ SMメガモールにて夕食 Meeting Malayan Plaza Hotel泊	朝○ 昼○ 夜×
7	8(土)	ホテル発 Enderun Collegeにて終日研修  ホテル着	8:00 8:15 12:00 14:00 18:00 20:00 21:00	専用バスにてEnderun Collegeへ Enderun Collegeにてプレゼン準備 昼食 プレゼン、認証式等 交流会、夕食 専用バスにてホテルへ ミーティング Malayan Plaza Hotel泊	朝○ 昼○ 夜○
8	9(日)	ホテル発 空港近くの中華レストラン ニノイアキノ国際空港発 関西国際空港着	10:00 11:00 14:00 19:05	チェックアウト 昼食 PR408 空路関西国際空港へ 着後解散	朝○ 昼○ 機内 夜○

## 5. 詳細報告

8月2日(日)曇り

関西国際空港に全員元気に集合。見送りに来ていた校長先生の激励の言葉を聞き、一路フィリピンへ。約4時間のフライトを終え、ニノイアキノ国際空港に到着。ガイドの出迎えをうけ、バスで宿泊先へ向かう。約40分でMalayan Plaza Hotelに到着したが、ホテルの準備が整っておらずチェックインに1時間かかった。チェックイン後、32階会議室でミーティングを行い、西本先生よりペソの配布、山脇先生より荷物のセキュリティの指導を行う。その後、近くのSMメガモールへ移動し、1階ナショナルブックストアを解散・集合の場所にすることを説明、夕食はグループごとで食べた。生徒は元気な様子で、西本先生おすすめのピザを食べたり、スーパーで果物などを購入したりしていた。ホテル帰着後、就寝。



8月3日(月)晴れ

33階のExecutive Loungeで朝食(6時よりオープン)。9時よりアジア開発銀行(ADB)で研修を受けた。内容は以下の通り。

①9:00-10:00

ADB Overview on the Mission and Operations of ADB

By: Ms. Harumi Kodama

Principal External Relations Specialist, Department of External Relations

②10:00-10:45

### ADB Overview on Presentation on Strategic Priorities and Directions of ADB

By: Mr. Safdar Parvez

Principal Planning and Policy Economist, Strategy Policy and Interagency Relations  
Division

③10:45-11:30

### ADB Overview on Poverty Reduction to Inclusive Growth, Strategic Priorities and Operational Focus in ADB

By: Mr. Armin Bauer

Principal Economist, Sustainable Development and Climate Change Department

Ms. Kodama は日本人なので、生徒たちは日本語で AIIB や、First Consolidated Bank について熱心に質問をしていた。また、他の講師の方にもフィリピンの産業の問題や貧困問題、教育問題について現状、原因などについて詳しい講義をしていただいた。生徒たちは緊張もあるのか固い表情だったが、フィリピンの現状について情報を得ようと必死に聞き入っていた。日本の高校生が ADB で研修を受けるのは初めてとのことだったが、世界には ADB のような機関があり、様々な人々が世界中から集まり支援を行っていることを高校生の段階から知ることは、持続可能な世界の構築に貢献する人材を育てるうえで、とても意義深いことであると感じた。研修後、中庭で記念撮影し、食堂で昼食をとった。



ADB での研修終了後、Quezon City (ケソンシティ) の Biodiversity Management Bureau へ。ここは、フィリピン政府の Department of Environment and Natural Resources に属する部署で、国連開発計画 (UNDP) フィリピン代表事務所と連携してフィリピンの環境を守る活動を支援している。今回、UNDP フィリピン代表事務所の全面的なバックアップにより、研修が実現した。内容は以下の通り。

- ①Overview
- ②New Conservation Areas in the Philippines Project
- ③Biodiversity Partnerships Project
- ④Strengthening the Marine Protected Areas to Conserve Marine Key Biodiversity Areas
- ⑤The Philippine Biodiversity Strategy Action Plan

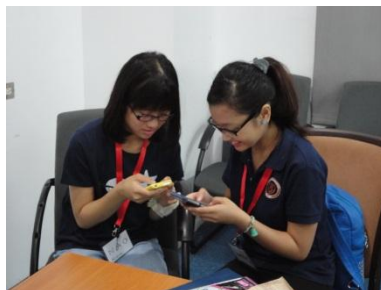
今回研修を受けた Biodiversity Management Bureau は、Quezon City にある Ninoy Aquino Park and Wildlife Center で行われた。マニラでも官庁街である Quezon City に広大な公園があることも驚きであったし、UNDP の支援のもと、少しずつではあるが、環境保全の活動を政府や複数の NGO 団体が手を取り合って進めていることに感動した。発展途上国の開発と環境保全の

バランスはとても難しい課題であるし、NGOの活動も資金面から考えてもとても難しいだろう。しかし、フィリピンの人々が自分の国に愛着を持ち、自然の豊かさを守っていこうという気概を持って行動されていることは、長い植民地としての歴史から脱却し、フィリピン人としてのアイデンティティを確立していく過程と重なり、成功を祈らずにはいられなかった。生徒たちが発展途上国の環境保全の問題を学ぶことは、発展途上国の多面的な問題を学ぶ上で大変貴重な機会となった。また、スタッフの方々がフィリピンのおやつや飲み物を用意してくださり、生徒たちは現地のおやつを体験することができた。



8月4日（火）晴れ

いよいよ Enderun 大学のバディとの初対面の日となった。来比前にメールでやりとりしていたとはいえ、直接会うのは初めてと会って緊張した面持ちの生徒たちだったが、Enderun 大学生のフレンドリーな雰囲気と明るさに助けられ、あっという間に打ち解けていた。ゲームをしたり構内案内をしていただいたり、日本から持参したお土産の説明をしたりして午前を過ごし、午後は世界的に有名ないわゆるごみ山のある Payatas（パヤタス）へ向かった。



Payatas は地名で、今回訪問したごみ処分場は正式名を Engineered Sanitary Landfills といい、Quezon City が管理している。以前別の場所にあったごみ処分場が移転されたものであり（以前のごみ山はごみが崩れて多数の死者が出たため）、移転の際にメタンガスを集める装置を設置したり、ごみ分別の知識を広めたり、Payatas の住民の生活向上のための取組みをしている。フィリピンにはごみ焼却場がないので、ごみを圧縮して埋め立てるしかないのだが、いまだにごみの分別などによるわずかな収入で暮らしている人々が Payatas の町を形成している。今回の視察では、バスの中から Payatas の町並みを見つつ、ごみ処分場の取組みを紹介している施設を訪問した。また、日本から持参した古着を渡した。

生徒たちは、バスの窓から Payatas の町並みを、息をのんで見ていた。最貧困層（BOP）と言われる人々が想像を絶する生活環境の中で暮らしているのを間近に見ることは、今回のフィール



ドワークのひとつの目的である。西本先生が、視察後生徒たちに語りかけてくださった言葉が心に響いた。「親は選べない。それぞれいろいろな事情はあるだろうけれど、Payatas の子供たちに比べれば、恵まれた環境に生まれ、教育を受けることができることを感謝しなければならない。みんなは lucky だ。どうかその lucky を、世界の unlucky な人々に、何かの形で将来返してほしい。」フィリピンでは比較的裕福な Enderun の学生も、三国丘の生徒も、ごみの中で暮らす子供たちの姿を心に刻んでほしいと心から願った。



8月5日（水）晴れ

いよいよ Enderun 大学の学生と一緒に GK Farm での2泊3日の研修の始まりとなった。Social Enterprise を推進するプラットフォームとして、フィリピン国内に約 2,500 ヶ所の広がりを見せ、国外にもその運営方針が広まりつつある GK Farm。GK とは“Gawad Kalinga”の略で、意味は “give care”。その創始者である Mr. Tony Meloto のウェルカムスピーチでここでの研修は幕をあげた。Tony は、GK Farm が実施している様々な Social Enterprise を紹介しながら、「私にはビジョンがあった。」と語った。一流企業への就職を蹴って企業家への道を歩み始めたとき、彼はフィリピンの貧困を終わらせるというビジョンのもと新しい取組みに次々と挑戦し、現在の GK Farm を形作っていった。現在、GK Farm には世界中から優秀な若者が集まり、Social Enterprise を起業したり、学んだりしている。

Opening Ceremony の後、GK Farm 内のツアー、Plush&Play（子供向けおもちゃ工房）、ミズを使った肥料作りの様子などを見学し、それぞれの自己紹介を兼ねた Activity をして、1 日目の研修は終了となった。そして、ここでは予期せぬ貴重な出会いがあった。日本からフィリピン大学に留学し、帰国前に研修に来ている田中光男さんが通訳として3日間、寄り添ってくださることになったのだ。Enderun の学生と寝食を共にしながらのマニラ郊外での研修は、三国丘の生徒の英語力だけでなく、精神力も鍛えられることだろう。



8月6日（木）晴れ

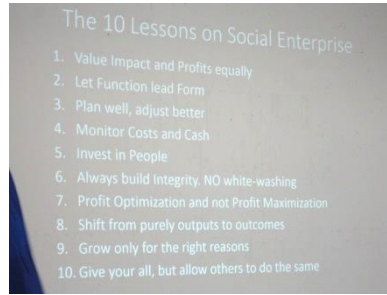
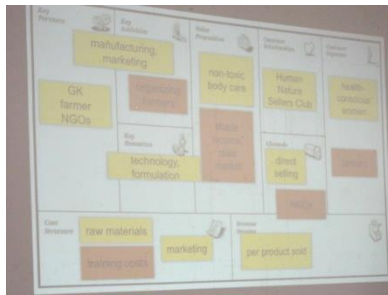
GK Farm での研修2日目は、田植え体験から始まった。約半数の生徒は日本でJAのご協力のもと田植え体験をしていたので、慣れた感じで田んぼに入っていた。今回植えた稲は、普通の米とは違って、クリスマスなどのお祭りのときに作るライスケーキ用のもち米のような米で、高価なものであるとのこと。生徒たちは丁寧に感覚を保って植えていた。日本の田んぼとの違いを聞くと、水の量が少なく底の感覚が少し硬くて木片などがあり痛いとのこと。苗床から苗を引き上げて泥を落とす体験をした生徒からは、「（こちらの人は）苗を少し乱暴に扱っていて、苗がちぎれてしまうことが多かった。日本だともっと丁寧に扱っていたし、機械がうまくさばっていた。」と日本との稲作の違いを語っていた。暑い中での作業だったが、いい経験になったのではないだろうか。



朝食を終えた後、Business Development Session が行われたが、生徒たちの「日本で考えてきた BOP ビジネスプランについて Enderun の学生と話し合いたい」という思いが募り、GK Farm



の講師に対して質問する時間へと変更。GK Farm 側からも Social Business Plan に必要なポイント等の提示があり、それにあわせて自分たちのビジネスプランを組み立てるよう説明があった。



午前のセッションが終わった後、Mr. Tony Meloto に三国丘高校から寄付として無線ラジオー式を贈呈した。これは、昨年の文化祭の売上金と生徒会執行部が集めた募金を使って西本先生のお力添えのもと購入したもので、広大な GK Farm の中で職員間の連絡に使用していただくために使用していただく。



午後は4班に分かれて料理の腕を競う Master chef challenge が行われ、生徒たちは Enderun の学生たちと相談して GK Farm 内のコミュニティで買いものをしたり、料理を作ったりして競い合った。どの班も盛り付けや飲み物にも工夫を凝らしたなかなかの出来栄であった。





夕食前は Community Interaction。GK Farm には約 50 戸の家があり、地元の家族が住んでいるが、その子供たちが参加し、自己紹介したり、愛について語ったりして盛り上がった。また、Enderun の学生中心にゲームをしたり、地元の子供たちと追いかけてっこをして遊んだり…。みんなよいお兄ちゃんお姉ちゃんになっていた。生徒たちが上手に子供と遊ぶ姿はとても意外だったが、発展途上国の子供たちの笑顔や目の輝きが印象に残った生徒が多かったようだ。



### 8月7日（金）晴れ

GK Farm 最終日、午前中は二つの講義を聴講。ひとつは、GK Farm の中で飼育しているアヒルの肉を使った Social Enterprise の一つ、Golden Duck について。もう一つは、最近の環境問題についての話だった。

その後チェックアウトし、午後 2 時には出発したが、大渋滞に巻き込まれ、ホテルに着いたのは午後 5 時半ごろだった。SM メガモールで食事をし、10 時に点呼をして 1 日を終えた。生徒たちは夕食後、班ごとに明日の発表の準備をしていた。



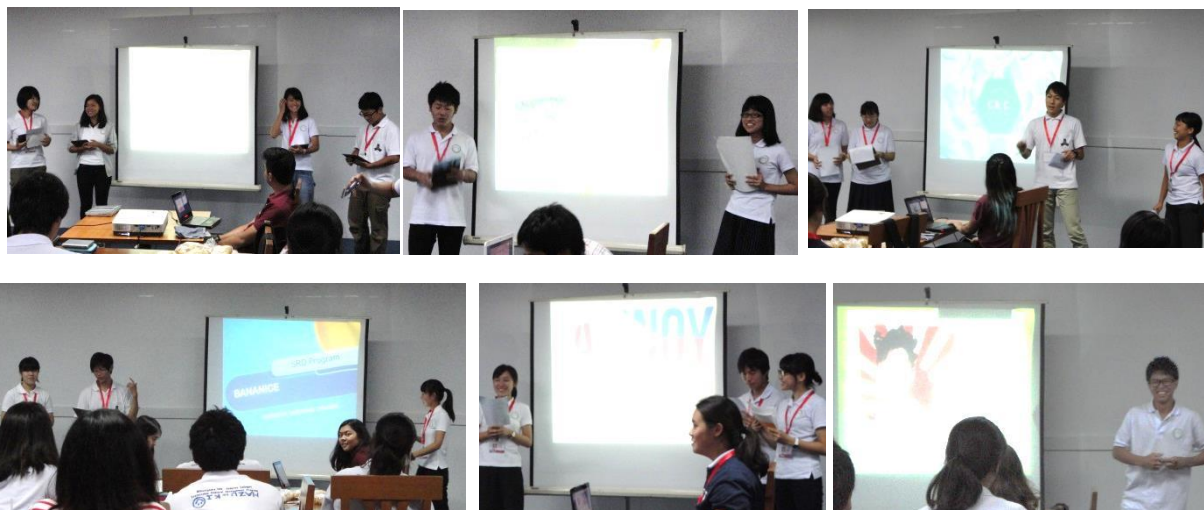
### 8月8日（土）曇り

この日は Enderun 大学にて、午前中プレゼン準備、午後プレゼンとなった。Enderun の学生たちは、スライド作りやスピーチの構成、練習まで本当によく三国丘の生徒の面倒をみてくれ、午後の発表は三国丘の生徒がプレゼンし、質疑応答は Enderun の学生がサポートする形で行われた。発表内容は以下の通り。

1. New Sustainable Paper
2. Coconussy
3. Jannoy Education
4. C&C (Clean and Canes)
5. Bananice
6. Japantea

日本ではなかなか深めることができなかつたビジネスプランが、フィリピンでの経験や Enderun の学生の協力でもとても具体的に進化していた。





その後、Enderun 大学学長の Mr. Ed Rodriguez 先生、西本先生、はるばる 4 時間かけて GK Farm から駆けつけてくださった光男さんよりスピーチをいただき、GK Farm で入手したイランイランの木を記念植樹をした。その後、Enderun の学生が手配してくれた夕食会場へ。最後はみんな涙でお別れをしていた。Enderun の学生はみんなエネルギーで明るく、面倒見がよく、年下の高校生相手に本当にいろいろと尽力してくれた。三国丘の生徒にとっても一生のつながりができたのではないかと思う。夜ミーティングを行い、最後のスケジュール確認をするるとともに西本先生よりフィールドワークを締めくくるお言葉をいただいた。生徒が、このような特別なフィールドワークをお手配いただいたことへの感謝を西本先生へ申し上げて、最後のミーティングが終了した。



### 8月9日（日）雨

朝 9 時半チェックアウト、10 時にホテルを出発し、10 時 45 分に昼食を取りにレストランへ。12 時に空港に到着したが、機材の遅れで予定時刻の 14 時から約 2 時間遅れの 16 時、ニノイアキノ国際空港を出発した。夜 9 時頃関西国際空港到着、解散した。

何人かの生徒はときどき胃腸の調子が悪くなったり、疲れからか最後の日は気分が悪くなったりした生徒もいたが、大病もなくみんな元気に 8 日間を過ごした。

フィリピンの若者は礼儀正しく有能で親切で明るく、このような若者がこれからのフィリピンを支えていくと思うと、フィリピンの発展を確信するとともに、日本の若者とフィリピンの若者が手をとって持続可能な社会の構築に貢献していつてもらいたいと思った。このフィールドワークを実現して下さった Enderun 大学のエド学長、学生代表のオシン、そして西本先生、ADB、GK Farm 関係者各位に心から感謝申し上げたい。

## 6. 生徒感想

・貧困はお金をあげたからといって終わるものではなく、持続できる仕事や、教育を与えなければ貧困は終わらない。先進国の人たちが発展途上国に技術やお金を置いて帰るといった形の支援は効果が無く、何も変わらない。発展途上国を支援する上で大切なのは、現地の人たちが持続できるシステムを作ること、現地の人に寄り添うということだとわかりました。また、昔の日本や今の中国のように国が発展するのにもなって環境を破壊してはいけない。今の発展途上国で大切なのは、環境に配慮しつつ国を発展させるということで、そのバランスが欠かせないと思います。

・テクノロジーが発展すればその国が急速に発展すると聞いたが、どうしたら効率よくその国のテクノロジーを発展させられるのか。教育から？それとも工場から？

・Enderun 大学生は、Logical framework についてすごく明確に理解していて、すぐに自分で問題について分析し、プレゼンテーションにつなげていました。また、自分の考えをはっきりと言い、講義に対してもすごく積極的でした。また、だらだらとした中途半端な休憩をとるのではなくて、遊ぶ時はとことん盛り上がり、やるときは本気で集中して、短時間で課題を終わらせる場所もすごいと思いました。

・GK Farm の実践を見て、コミュニティの中で生産、収穫、製品製造まで行うやり方は、私たちの作成している BOP ビジネスプランにも応用できると思いました。発展途上国の、国レベルで解決しなければならない大きな問題になると企業は解決できませんが、むしろ地域レベルの問題は国や国際機関よりも企業の方が活躍できそうだとわかりました。GK Farm の実践はこれからも発展していくと思います。

・このフィリピンのフィールドワークでは、現地に行った者にしかわからない激しい貧富の差や、貧困が抱える問題などを学び、本当にたくさんの価値ある、貴重な体験をしました。バスの外のどこを見ても、開発に向けての工事が実施されていて、国民が何か一つの希望に向かって、上に向かっていくような気がしました。彼らは、彼らの環境下で一生懸命でした。先進国である日本では、決して感じることでできない気持ちでした。このような素晴らしいフィールドワークをサポートして下さった西本先生、エンドラン大学の先生方、オシンさんはじめ学生の皆さん、GK ファームのスタッフの皆さん、みつおさん、SGH の先生方には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。このフィールドワークでの経験を絶対に忘れずに BOP ビジネスの提言だけでなく、これからの私の人生に活かしたいです。また、今回のフィールドワークで自分の英語力の低さを痛感しました。まだまだだと思いました。自分は将来、世界で英語を使って働きたいと思っています。大人になった自分がしっかりと活躍できるように、コミュニケーションの基本の言語である英語が上手く使えるように、これから英語力の向上に一層力を入れたいです。次にエンドランの学生さんに会う時はもっと英語を聞いて英語で話せるようになっていきたいです。

・実際に訪れて初めてわかることがあるっていうけど、まさにその通りでした。もしあのまま机上論だけでプランを立てていたらきっとものすごく薄っぺらなものになっていたと思います。本当に前途多難のビジネスプランだとわかったので、気を引き締めていかないと大変なことになりそうです。

・印象に残ったのは、国が違っててもみな同じ人間だということです。そして同じ人間なのに国が異なるだけで言語、価値観、考え方、文化に違いが生まれることです。個性があるのはとてもい



いことだと思えます。もしみんな同じだったら話す必要もありませんし、人類は発展しなかったかもしれません。しかし、異なるものを、国境を越えてシェアすることはとても大事だと思えます。そしてそれは、日本の限られた環境では気付けなかったと思えます。日本での常識がまったく通用しなかったのも初めての経験でした。

・残念に思ったのは自分の英語力です。たかがペーパーテストの英語に自信があるだけで、外国人と会話ぐらいできるだろうと思ってたことがとても恥ずかしいです。話す時にとっさに出てくる英語は、中学校で習った簡単なものばかりで、学習したものをアウトプットしないと自分のものにできないのだなと思えました。日本人と英語で話すときは発音が日本風でも伝わりますが、フィリピン人とは伝わりませんでした。私がバディの言いたいことがわからないときは Google 翻訳を使ったり、語彙コントロールをしてくれたりして、バディは決してコミュニケーションをとるのを諦めませんでした。私はとても嬉しかったし、同時に無力の自分から目を背けたくくなりました。英語ができないのは場数を踏んでないから当然かもしれないけど、英語力のなさに目を背けなくなったのは、私の弱さです。これからは積極的に話す英語にも挑戦していこうと思えます。

・BOP ビジネスを考える際、先進国である日本でぬくぬくと育った私達には、発展途上国の現状は分からないことがたくさんあります。人からは教えてもらうことができないそれらを自分で感じ、学べる機会を得ることができた私は恵まれているのだと思えます。高校生の海外研修には考えられないほど充実したプランを立ててくれた先生方や、三国丘が SGH に認定されるために尽くしてくれた方々に感謝したいと思います。



以上